

学 修 案 内

1. 総 説

(1) 学院，系，について

本学の各学院に置く系については，次のとおり。

学 院	系
理学院	数学系
	物理学系
	化学系
	地球惑星科学系
工学院	機械系
	システム制御系
	電気電子系
	情報通信系
	経営工学系
物質理工学院	材料系
	応用化学系
情報理工学院	数理・計算科学系
	情報工学系
生命理工学院	生命理工学系
環境・社会理工学院	建築学系
	土木・環境工学系
	融合理工学系

(2) 授業科目と学修について

授業科目区分

本学の授業科目は，教養科目群，専門科目群に分けられ，その授業科目区分は，次表のとおり。

科目群	授業科目区分	学士課程における授業内容等	科目コード
教養科目群	文系教養科目	人文学系，社会科学系，融合系の授業科目	100～300 番台
	英語科目	英語	100～300 番台
	第二外国語科目	ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語， スペイン語，イタリア語，韓国語， 古典ギリシア語，古典ラテン語	200～300 番台 (一部科目は 100 番台)
	日本語・日本文化科目	外国人留学生の教育のための授業科目	100～200 番台
	教職科目	教育職員免許法による免許状取得のための「教職に 関する科目」	100～300 番台
	広域教養科目	ウェルネス科目，国際意識醸成・広域科目	100～300 番台

教養科目群	理工系教養科目	数学，物理学，化学，生命科学， 宇宙地球科学，図学，情報，環境教育， 科学・技術の最前線，創造性育成	100 番台
専門科目群	専門科目	創造プロセス科目，初年次専門科目	100番台
		共通専門科目，系専門科目	200～300番台
	研究関連科目	研究プロジェクト科目，学士特定課題研究科目， 学士特定課題プロジェクト科目	300 番台

ナンバリング及び科目コード

各授業科目には，学修の段階や順序等を表し，教育課程の体系性を明示するため科目コードを付しています（ナンバリング）。学士課程の授業科目は100番台，200番台及び300番台の科目コードが付いています。（大学院については，修士課程の授業科目は400番台及び500番台，博士後期課程の授業科目は600番台）（P. 15参照）

達成度評価

皆さんは，ナンバリングによって体系化されたカリキュラムに基づき，達成度進捗で授業科目を履修していきます。そして授業科目ごとの達成度評価（100点満点の60点以上が達成基準）を受け，また，系所属，学士特定課題研究開始，卒業の各段階において，必要な単位・要件を満たしているか，達成度の確認を受けることになります。

身に付ける力

本学では，養成する人材像及び教育ポリシーに沿って，5つの「学生が身に付ける力」を設定しています。その5つの力は，シラバスに表記しています。

・「専門力」

基盤的な専門力：研究及び技術開発の基盤となる専門力

・「教養力」

幅広い教養と自ら学び考えることができる力：

物事を俯瞰的に把握できる幅広い知識と語学力

倫理観と未知の世界に挑戦する意志をもって行動し，自ら学び考えることができる力

・「コミュニケーション力」

論理的に表現でき，尊重しあうことができる力：自分の意見を周囲に対して論理的に表現でき，そして，互いに又はチームで理解及び尊重しあうことができる力

・「展開力（探究力又は設定力）」

整理及び分析できる力：多角的な視点で事象を整理でき，また，論理的な思考で分析できる力

・「展開力（実践力又は解決力）」

基本的な問題を解決できる力：豊かな発想力や創造力を用い，知識や技能を活用して基本的な問題を解決できる力

学期とクォーター

本学の学年は，4月1日に始まり，翌年3月31日に終わります。そのうち4月～9月第4週又は第5週のうち毎年度において学長が定める日までを前学期，前学期最終日の翌日～3月を後学期とし，さらに各学期を，前半と後半の4つに分けた期間（クォーター）を基本として授業が行われ，大部分の授業は1つのクォーターで終了します。

各クォーターの授業・期末試験は概ね、第1クォーターは4月上旬～6月上旬、第2クォーターは6月上旬～8月上旬、第3クォーターは、9月下旬～11月下旬、第4クォーターは11月下旬～翌年2月上旬に行われます。具体的な日にちは、毎年度ホームページ等により公表します。

学期	前学期		後学期	
	4月～9月第4週又は第5週		前学期最終日の翌日～3月	
教育カリキュラム	第1クォーター(1Q)	第2クォーター(2Q)	第3クォーター(3Q)	第4クォーター(4Q)
	4月上旬～6月上旬	6月上旬～8月上旬	9月下旬～11月下旬	11月下旬～翌年2月上旬

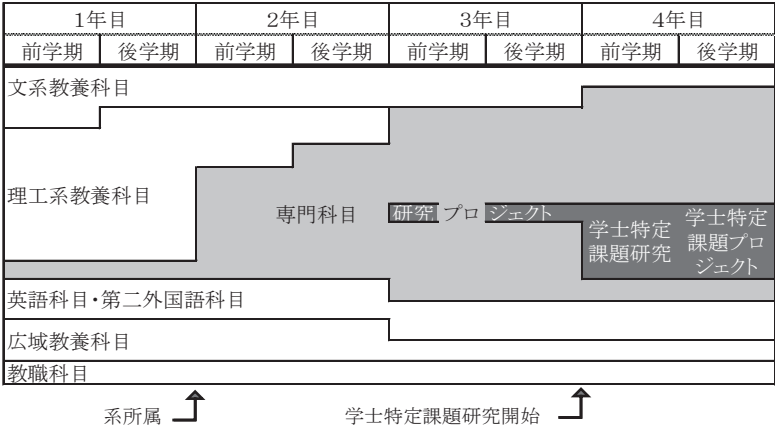
学修を進めるにあたっては、この学修案内と授業時間割をみて学修計画を立てることになりますが、各授業科目の学修はおおよそ次の順序で進めることになります。

- 入学1年目ー（系に所属する前）全学生が一様に主として100番台の文系教養科目、英語科目、理工系教養科目、広域教養科目、所属する各学院の初年次専門科目を履修します。これらの科目の修得により、入学1年後の系所属に必要な単位を満たす必要があります。なお、200番台以降の授業科目は、入学年には履修できません。
- 入学2年目ー（系で学修）200番台の文系教養科目、英語科目、第二外国語科目、広域教養科目を履修するほか、各系に所属し各系の標準学修課程の専門科目（基本的には200番台）を履修します。
- 入学3年目ー（系で学修）200～300番台の文系教養科目、英語科目、第二外国語科目、広域教養科目、各系の専門科目の修得を進めると共に、研究プロジェクト科目を履修します。また、第2クォーターから夏休みにかけて、留学などの国際経験等をすることを推奨しています。
- 入学4年目ー（系で学修・研究室）主として各系の専門科目を履修すると共に、学士特定課題研究、学士特定課題プロジェクトを履修します。

※ 3年での早期卒業（P. 29参照）をする場合は、入学3年目の第1クォーターで研究プロジェクトを行い、その年の後学期に学士特定課題研究Sを履修します。3年6月での早期卒業の場合、研究プロジェクト、学士特定課題研究等の履修時期は、各学生の状況に応じて異なります。）

なお、中学校、高等学校教員免許状の取得希望者は、別途、所定の教職に関する科目を履修する必要があります。以上の科目を修得する単位数の比率を図示するとおおよそ表1のとおりとなります。

表1 学期と主に履修する授業科目との関係（くさび型教育）



卒業までに修得すべき単位数

入学後、卒業までに修得すべき最低必要単位数は表 2 及び表 3 のとおりであり、学期別にみた望ましい修得単位は表 4 のとおりです。

単位修得にあたっては、計画的に各学期及びクォーターに割りあてて学修を進める必要があります。特に入学 4 年目には学士特定課題研究を行いますので、それまでに、研究に必要な専門学力を十分に修得しておくよう計画しなければなりません。

以上に述べたような学修を進めて行くためには、アカデミック・アドバイザーに相談するのがよいでしょう。

留学又は国際経験、英語力

本学では、学士課程入学から修士課程修了までの間に、留学又は国際的な経験をするようカリキュラムを設計し、必須としている専門分野もあります。特に 7 月～9 月の時期に留学しやすいよう、学士課程においては入学 3 年目の第 2 クォーターには基本的に必修科目を配置していません。なお、修士課程では、原則、専門科目は英語で行われます。学士課程のカリキュラムの中にも英語で行う授業/クラスがありますので、積極的に履修し学士課程のうちから英語力を高めておくことが大切です。

表2 卒業までに必要な最低単位数

区 分 科 目	最 低 必 要 単 位 数			
	系所属資格		学士特定課題研究資格	卒業資格
文系教養科目	100番台の必修科目2単位及び100番台の選択必修科目（人文学系，社会科学系，融合系から各1単位），計5単位	31単位 ・左記計23単位から17単位，及び左記を含めて100番台科目（別に定める科目を除く）から計31単位	9単位 ・100番台の必修科目2単位 ・100番台の選択必修科目3単位（人文学系，社会科学系，融合系から各1単位） ・200番台又は300番台の必修科目又は選択必修科目から4単位	13単位 ・100番台の必修科目2単位 ・100番台の選択必修科目3単位（人文学系，社会科学系，融合系から各1単位） ・200番台の選択必修科目4単位 ・300番台の必修科目2単位 ・300番台の選択必修科目2単位
英語科目	100番台の必修科目，計4単位		6単位 ・100番台の必修科目4単位 ・200番台又は300番台の必修科目2単位	9単位 ・100番台の必修科目4単位 ・200番台の必修科目4単位 ・300番台の必修科目1単位
理工系教養科目	100番台の必修科目，計14単位		14単位 ・100番台の必修科目14単位	14単位 ・100番台の必修科目14単位
第二外国語科目	—	—	2単位 ・200番台又は300番台の選択必修科目 ※第二外国語選択調査で選ぶ1言語2単位又は2言語各1単位	4単位 ・200番台及び300番台の選択必修科目 ※第二外国語選択調査で選ぶ1言語4単位又は2言語各2単位
研究関連科目	—	—	2単位 ・研究プロジェクト2単位	12単位（※一部の系は14単位） ・研究プロジェクト2単位 ・学士特定課題研究4単位 ※一部の系は6単位 ・学士特定課題プロジェクト6単位 ※表3及び各系の標準学修課程を参照
その他の専門科目	—	—	各標準学修課程により定める	各標準学修課程により定める
計	上記31単位 ※上記の文系教養科目の必修科目及び選択必修科目は5単位が上限，英語科目の必修科目は4単位が上限，理工系教養科目の必修科目は14単位が上限である。	—	上記を満たし，総修得単位が，合計100単位から110単位までの間で各系が定める単位数以上 ※表3及び各系の標準学修課程を参照	上記を満たし，総修得単位数が，124単位以上の各系が定める単位数以上 ※表3及び各系の標準学修課程を参照

（注）系所属資格の「31単位以上」には国際意識醸成・広域科目の一部科目，日本語・日本文化科目，教職科目を含めることはできません（ウェルネス科目は含めることができます）。

学士特定課題研究資格の「合計100単位から110単位までの間で各系が定める単位数以上」及び卒業資格の「124単位以上の各系が定める単位数以上」には教職科目を含めることはできません（ウェルネス科目，国際意識醸成・広域科目，日本語・日本文化科目は含めることができます）。

表3 各標準学修課程により定める学士特定課題研究履修及び卒業に必要な単位数の概要

本表に示す単位数は、表2に示す文系教養科目、英語科目、第二外国語科目、理工系教養科目の単位数は除いてあります。
各標準学修課程案内 (P. 74～P. 190) に詳細を記載していますので、必ず各系の標準学修課程案内を参照してください。

標準学修課程	学士特定課題研究 (学士特定課題研究S) 履修資格 (研究プロジェクト:「研プロ」と記載)	卒業資格 (研究プロジェクト:「研プロ」, 学士特定課題研究:「特 課研」, 学士特定課題プロジェクト:「特課プロ」, 学士 特定課題研究S:「特課研S」と記載)
数 学 系	32 (◎12, ○18, 研プロ2) (学士特定課題研究申請時に転系の場合は 別途定める。)	44 (◎12, ○18, 研プロ2, 特課研6, 特課プロ6) (学士特定課題研究申請時に転系の場合は別途定める。) (早期卒業の場合, 「特課研6, 特課プロ6」を「特課研S8」と読み 替え40単位とすることも可能)
	総修得単位数: 108	総修得単位数: 124
物 理 学 系	45 (◎24 (物理学実験(A,B)4, 研プロ2 含む))	63 (◎37 (研プロ2, 特課研4, 特課プロ6含む) , ○4) (※)
	総修得単位数: 104	総修得単位数: 124
化 学 系	◎14 (講義) , ◎12 (実験) , 研プロ2, 無印15	◎18 (講義) , ◎12 (実験) , 研プロ2, 無印20, 特課研 4, 特課プロ6 (※)
	総修得単位数: 104	総修得単位数: 124
地 球 惑 星 科 学 系	◎1, 所定の実験科目から3, 研プロ2	◎1, ○25 (所定の実験科目から3含む) , 研プロ2, 特課 研4, 特課プロ6 (※)
	総修得単位数: 106	総修得単位数: 124
機 械 系	50 (◎21 (研プロ2) , ○ (A群) 14, ○ (B群) 4 または○ (C群) 8) ※早期卒業の場合は50 (◎21 (研プロ2) , ○ (A群) 14)	60 (◎31 (研プロ2, 特課研4, 特課プロ6) , ○ (A群) 14, ○ (B群) 4または○ (C群) 8) ※早期卒業の場合は60 (◎29 (研プロ2, 特課研S8) または ◎31 (研プロ2, 特課研4, 特課プロ6) , ○ (A群) 14, ○ (B群) 4または○ (C群) 8)
	総修得単位数: 110	総修得単位数: 124
シ ス テ ム 制 御 系	54 (◎6 (研プロ2含む) , ○11)	62 (◎16 (研プロ2, 特課研4, 特課プロ6含む) , ○11) (※)
	総修得単位数: 110	総修得単位数: 126
電 気 電 子 系	53 (◎27 (研プロ2) 含む)	65 (◎42 (研プロ2, 特課研4, 特課プロ6含む)) (※)
	総修得単位数: 108	総修得単位数: 124
情 報 通 信 系	50 (◎10, ○17 (A群9, B群8) , 研プロ2含む)	64 (◎12, ○17 (A群9, B群8) , 研プロ2, 特課研4, 特 課プロ6含む) (※)
	総修得単位数: 110	総修得単位数: 128
経 営 工 学 系	46 (研プロ2, ○30 (特定の科目は除く))	58 (研プロ2, 特課研4, 特課プロ6, ○30 (特定の科目は 除く)) (※)
	総修得単位数: 110	総修得単位数: 124
材 料 系	◎12, 研プロ2, 材料科学実験 (M, P, C) 6, ○6 ※ただし, 3年または3.5年で早期卒業希望する 場合には, ○は2以上でよい	44 (◎24, (研プロ2, 特課研4, 特課プロ6, 材料科学実験 (M, P, C) 6を含む) , 専門科目 (300番台) から所定の科目 ○6を含め20 (ただし, 同一科目群内の300番台から所定 の科目○6を含め18)) (※)
	総修得単位数: 106	総修得単位数: 124

標準学修課程	学士特定課題研究 (学士特定課題研究S) 履修資格 (研究プロジェクト:「研プロ」と記載)	卒業資格 (研究プロジェクト:「研プロ」, 学士特定課題研究:「特課研」, 学士特定課題プロジェクト:「特課プロ」, 学士特定課題研究S:「特課研S」と記載)
応用化学系	46 (◎16 (研プロ2含む))	56 (◎26 (研プロ2, 特課研4, 特課プロ6含む)) (※)
	総修得単位数: 106	総修得単位数: 124
数理・計算科学系	45 (A群5, B群5, C群8, 研プロ2) , 理工系教養科目 (数学) 2, (情報) 2	45 53 (A群5, B群5, C群8, 研プロ2, 特課研4, 特課プロ6) (※)
	総修得単位数: 100	総修得単位数: 124
情報工学系	39 (A群10, B群10, C群10, 研プロ2) , 理工系教養科目 (情報) 2	45 (A群10, B群10, C群10, 研プロ2, 特課研4, 特課プロ6) (※)
	総修得単位数: 110	総修得単位数: 124
生命理工学系	56 (◎14, ○8, 研プロ2) ※早期卒業希望者は, 200番台の◎12と することができる	66 (◎14, ○8, 研プロ2, 特課研4, 特課プロ6) (※)
	総修得単位数: 108	総修得単位数: 126
建築学系	50 (◎6, ○18, 研プロ2) , 理工系教養科目 (図学) 5	63 (◎9, ○21, 研プロ2, 特課研4, 特課プロ6) (※)
	総修得単位数: 110	総修得単位数: 128
土木・環境工学系	46 (◎9 (研プロ2含む) , ○14) ※早期卒業希望者は, ◎8とすることが できる	64 (◎23 (研プロ2, 特課研4, 特課プロ6含む) , ○21) (※早期卒業者は64 (◎21 (研プロ2, 特課研S8含む) , ○21) とすることができる)
	総修得単位数: 110	総修得単位数: 128
融合理工学系	44 (◎28, 研プロ2)	54 (◎30, 研プロ2, 特課研4, 特課プロ6) (※)
	総修得単位数: 110	総修得単位数: 128

(※) 卒業資格について, 各系の早期卒業者は「特課研4, 特課プロ6」を「特課研S8」と読み替えることができる。

本ページ朱書き箇所: R5.3月更新

R6.9月更新

R7.4月更新

表4 学期又はクォーター別にみた、必修科目の望ましい修得単位数

本表は、必修科目及び選択必修科目について、学期又はクォーターごとに学修計画を立てる上で参考となるよう示しているものです。

卒業までに修得すべき最低必要単位数は表2及び表3のとおりとなっていますので、これらの表を基に学期又はクォーターごとに学修計画を立ててください。

	1 年 目				2 年 目				3 年 目				4 年 目				計
	前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期		前学期		後学期		
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	
文系教養科目	2 (*1)	3 (*2)			4				2		2 (*3)		—				13
英語科目	1	1	1	1	1	1	1	1	1 (*4)	—			—				9
第二外国語科目	—				1	1	2 (*5)			—		—				4	
理工系教養科目	14 以上				—				—				—				14
研究プロジェクト	—				—				2 (*6)				—				2
学士特定課題研究	—				—				—				4 (*7)	—		4	
学士特定課題プロジェクト	—				—				—				—		6	6	

(*1) 東工大立志プロジェクト

(*2) 人文学系，社会科学系，融合系の各分野から1単位

(*3) 教養卒論

(*4) 英語第九

(*5) 2年目の後学期，又は3年目の前学期に履修

(*6) 3年目の1Q，3Q又は4Qに履修（※ 3年での早期卒業の場合は必ず1Qに履修）

(*7) 一部の系では単位数が異なる場合がある

（注意）数理・計算科学系，情報工学系及び建築学系においては，学士特定課題研究申請の要件として別に定める理工系教養科目の単位修得が必要です。該当科目については各系の標準学修課程を確認してください。

（3）単位の修得について

授業科目と単位

学修するすべての授業科目には，それぞれの単位数が規定されていて，その構成と意味は次のとおりです。

例えば，単位数2－1－0の場合は，その授業科目が「講義2単位－演習1単位－実験等0単位」をもって構成されていることをあらわし，講義・演習・実験等の単位数の合計3単位がその授業科目の単位数となります。

1単位の授業科目は，授業の時間外も含め45時間の学修を必要とする内容をもって構成され，その授業科目に応じ，授業時間外に必要な予習，復習等を考慮して，次の基準を原則として，計算します。

（1）講義及び演習については，15時間の授業をもって1単位とする。

（2）実験，実習，製図及び実技については，30時間の授業をもって1単位とする。

※ 一部の授業科目は，上記（1）の場合に30時間の授業をもって1単位，（2）の場合に45時間の授業をもって1単位とします。

履修申告上限単位数（キャップ制）

1単位は、授業時間外も含め45時間分の学修をもって付与されます（大学設置基準）。つまり、授業に出席して学修する時間のほか、授業の事前事後に学修することが求められます。授業の前に自主的に学修して、授業では学修してきた内容をもとにディスカッションしたり、授業の後に課題が出されたりするなど、授業時間外学修を前提とした授業が展開されます。このため、授業時間外に学修する時間を確保して内容をしっかり身につけるために、学年（4月～3月）を通して履修申告できる授業科目の単位数の上限を48単位として制限します。（これをキャップ（CAP）制といいます。）

ただし、当該年度の年度GPAが3.00以上だった場合は、翌年度の上限単位数が56単位になります。また、新入生及び前年度の年度GPAが3.00未満であった者が、当該年度の前学期において学期GPAが3.00以上だった場合は、当該前学期に履修申告した単位を含め、当該年度（4月～3月）の上限単位数が52単位になります。なお、卒業要件にならない授業科目（教職科目・大学院科目）の単位数は上限単位数には含みません。（注意）上記の「48単位」等の単位数は、あくまで「履修申告できる単位数」ですので、履修した結果、不合格となった科目の単位も含まれます。

受講人数を制限する授業科目

履修を希望する授業科目であっても、2年目以降の実験、実習、製図、演習などの中には、設備等の都合で人数が制限されているものがあり、申告しても許可されない場合があります。また、文系教養科目等の全ての学生を対象とする授業科目など、講義室等の収容人数を超えた場合等も受講人数を制限することがあります。

履修前提条件付きの授業科目

あらかじめ関連する授業科目間での履修の順序を定め、前提となる授業科目（履修前提科目）の単位を修得した後になければ履修することができない授業科目（履修前提条件付き科目）があります。履修前提科目の単位を修得していない場合であっても、履修前提条件付き科目の授業担当教員の許可を受けた場合は履修することができます。ただし、在学中に当該履修前提科目の単位を修得しない場合は、当該履修前提条件付き科目の単位を卒業の要件に係る単位数に含めることはできません。履修前提条件付き科目は各系の標準学修課程の付表に記載しています。

オンラインで実施する授業科目

時間割で指定された曜日・時限に講義室等で対面による授業を実施する代わりに、曜日・時限内外を問わず、一部または全部をオンラインで実施する授業科目（オンライン授業）があります。オンライン授業には、様々な実施形態がありますが、本学では主な実施形態についてそれぞれ次のとおり称し、時間割等に掲載しています。なお、各授業科目の具体的な実施方法等は、シラバス（OCW P13参照）のほか、授業担当教員に確認してください。

- (1) 対面型：対面方式で実施する授業
- (2) ライブ型：Zoom等のビデオ会議ツール・アプリを用いて実施する同期型のオンライン授業
- (3) ハイフレックス型：対面型を実施しながら、ライブ型にて同時配信する同期型の授業
- (4) オンデマンド型：指定された曜日・時限はなく、あらかじめ配付される講義動画や課題を指定された日時までに視聴し、課題等を実施する非同期型のオンデマンド方式の授業
- (5) ブレンド型：対面型、ライブ型、ハイフレックス型、オンデマンド型を組み合わせで実施する授業

（注意）全授業時間のうち対面型が半分未満となる授業科目（60単位制限対象科目）の履修により修得した単位数は、法令及び学則の規定により、卒業に必要な単位数として計60単位までしか算入できません。ただし、非常時における特例的な措置としての運用の時期はこの限りではありません。

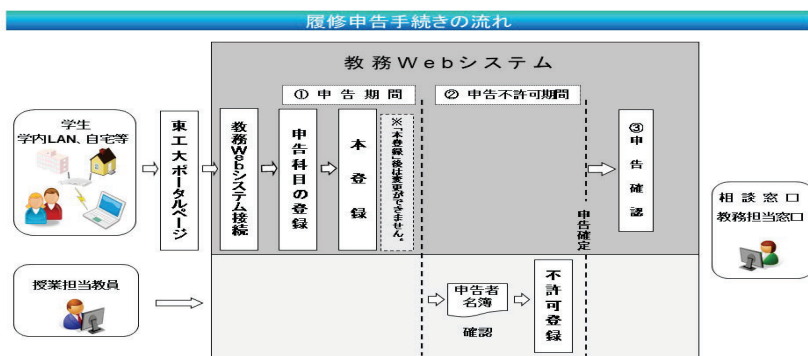
履修申告

単位を修得するためには、所定の期間に、教務Webシステムを用いて申告科目の登録（履修申告）を行い、許可を受けなければなりません。

（注意）最初の授業を欠席した場合など、教員からの手続きにより、その履修申告が「申告不許可」となる場合があります。その場合は授業を受けたり期末試験を受けることはできません。

1) 履修申告の時期と方法

毎学期始めに履修申告の期間が設けられ、その期間に東工大ポータルにログインし、教務Webシステムを用いて履修申告科目の登録を行わなければなりません。この履修申告手続きを図解すると、右の図のようになります。



履修申告期間・・・前学期開始又は後学期開始（第1クォーター開始又は第3クォーター開始）後、当該クォーターの各曜日の授業科目が授業日程上すべて2回目となる日まで（具体的な期日は時間割表に記載されます。）

不許可登録期間・・・授業担当教員により申告不許可となる科目があった場合は、各クォーターの各曜日の授業科目が授業日程上すべて3回目となる日までの間（具体的な期日は時間割表に記載されます。）に、メールで通知されます。その場合は、当該授業科目の履修申告は取り消されます。

履修申告確認・・・本登録を完了した際（及び不許可登録が行われた場合はその際）に教務Webシステムからメールで通知されますので、履修申告科目（及びクラス）に間違いがないかよく確認してください。履修申告に係る手続きは、所定の期間を過ぎた後は受け付けられませんので注意して下さい。

注意

- (1) 病気、その他やむを得ない事情によって、定められた期間中に手続きができない場合は、必ず期限の前に教務課に連絡して指示を受けてください。
- (2) 一度合格した授業科目の履修申告はできません。また、不合格となった授業科目の履修を希望する場合は、履修申告（再申告）が必要です。
- (3) 授業時間の一部又は全てが重なっている科目同士の履修申告はできません。

2) 追加申告

履修申告期間の終了後に授業科目を追加したい場合は、当該クォーターの各曜日の授業科目が授業日程上すべて5回目となる日までに（具体的な期日は時間割表に記載されます。）追加申告の手続きを行い、授業担当教員の許可を受けなければなりません。

3) 申告取消

履修申告期間の終了後に既に履修申告した授業科目を取り消したい場合は、当該クォーターの各曜日の授業科目が授業日程上すべて3回目となる日までに（具体的な期日は時間割表の記載や、掲示等で周知。）申告取消の手続きを行わ

なければなりません。期日を過ぎてからの申告取消は一切できません。病気、その他やむを得ない事情によって、定められた期日までに手続きができない場合は、必ず事前に教務課に連絡して指示を受けてください。

4) 集中講義の追加申告、申告取消

集中講義の場合で、授業の最終日が追加申告や申告取消の期限後になる場合は、上記2)及び3)にかかわらず、手続き期限を当該集中講義の最終日までとします。(申告取消の場合は、授業最終日(授業最終日が土日祝日の場合や、9時限以降の場合は翌平日(直後の平日))の教務課窓口開室時間までに教務課への提出が必要です。)

試験と成績

1) 授業科目の認定及び学修の評価

履修申告を行い、学修を続けてきた授業科目に関する評価は、授業の目的、形態又は内容に応じ、期末試験等の評価により、総合的に行われ、合格が決まります。評価は100点満点で行われ、60点以上の成績を合格とし、その授業科目の単位が与えられます。一度合格した授業科目については、その単位を取り消すことや、その成績を更新することはできません。なお、一部の授業科目は点数ではなく、合格及び不合格による評価を行います。

2) 追試験と再試験

病気、事故等やむを得ない理由により、期末試験を受けられなかった者に行う試験を追試験といい、試験に合格しなかった者に同一学期内で行う試験を再試験といいます。再試験に合格した場合の成績はすべて60点となります。

追試験、再試験を行う場合は、その都度掲示等により周知します。

3) 成績と単位付与

履修した授業科目の成績は、各クォーター終了後の成績報告処理が終わり次第、教務Webシステムで確認することができます。ただし、単位付与は、学期毎(前学期・後学期)に行われます(クォーター毎ではありません)。

4) 成績に対する確認及び不服申立てについて

成績に疑問がある場合は、教員に直接又は教務課を通じて確認することができます。また、確認の結果に対し、不服を申し立てることができます。確認の受付は、成績公開後10日以内、卒業・修了判定等に関係する場合は3日以内、不服申立の受付は、確認の結果受領から3日以内です。詳細は「東京工業大学における成績に対する確認及び不服申立てに関する要項」(P. 223)を参照してください。

なお、成績に対する確認、不服申し立てができるのは、成績への疑問に明確な根拠がある場合のみであり、単に再評価を願い出て疑問の内容を具体的に示していない場合や、いわゆる救済目的、懇願的な内容のものは受け付けません。具体の事例は次のとおりです。

1. 受付できる事例

- 1) 成績の誤記入等、明らかに授業担当教員の誤りであると思われるもの。
- 2) シラバスに記載されている成績評価の基準及び方法に照らして、明らかな誤りがあると思われるもの。

2. 受付できない事例

- 1) 担当教員に情状を求めるもの。(卒業に関わる(この単位があれば卒業できる)、等)
- 2) 他の学生との対比上の不満を訴えるもの。(友人は80点だが、なぜ自分は70点なのか、等)
- 3) 具体的な根拠がなく、その評価になった理由のみを問い合わせるもの。(がんばったと思うのだが、どうして60点なのか、等)

※ 2) , 3) の場合であっても、明確な根拠の提示がある場合は受付可。

(4) 修学指導について

以下に該当する学生は、成績不振学生としてアカデミック・アドバイザー等による修学指導（個別面談等）の対象となります。詳細は「東京工業大学学士課程における成績不振学生の修学指導に関する申合せ」(P. 229) を参照してください。
なお、休学等の事情がある場合は対象に含まれません。

- ・全学生
 - 前の学期に、履修申告しなかった者
- ・系に所属していない所属学生のうち、次のいずれかに該当する者
 - 1) 前の学期に修得した単位数が15単位未満の者
 - 2) 前の学期のGPAが1.25未満で、当該学期に単位を修得した科目数／当該学期に履修申告した科目数 < 0.6の者
 - 3) 在学期間が1年を経過して系に所属していない者
- ・系所属学生のうち、学士特定課題研究の申請資格を得ていない者で、次のいずれかに該当する者
 - 1) 修得単位数が15単位未満の学期が、2回以上連続した者
 - 2) 前の学期のGPAが1.25未満で、当該学期に単位を修得した科目数／当該学期に履修申告した科目数 < 0.6の者
 - 3) 系に所属した後、在学期間が2年を経過して学士特定課題研究の申請資格を得ていない者
- ・学士特定課題研究開始後、在学期間が1年を経過して卒業していない者

(5) GPAとGPTについて

GPA（グレード・ポイント・アベレージ）

本学では、平成28年度入学者から、学修の状況及び成果の客観的評価を示す指標であるGPAを用いた制度を導入しました。GPA制度は、厳格かつ透明性のある学修の評価を通じ、学生の能動的学修及び教員等による的確な修学指導を推進し、教育の質の向上に資することを目的としています。GPAは、成績証明書及び学業成績書に記載するとともに、履修申告上限単位数の上限を緩和する場合の基準、修学指導対象学生にかかる基準として用います。教務Webシステムでは、在学期間を通算したGPAの他、年度毎のGPA、学期毎のGPA、クォーター毎のGPAも表示します。

なお、卒業要件とならない授業科目（教職科目、大学院科目）、研究関連科目（研究プロジェクト、学士特定課題研究、学士特定課題プロジェクト等）、合格・不合格で成績が付く授業科目、単位認定された授業科目はGPAの対象外としています。また、不合格点の付いた授業科目を再履修し単位を修得した場合は、当該科目の不合格とされた履修申告単位と成績を通算GPAの算出から除外し、再履修の合格点を用いて通算GPAを修正します。

計算式は次のとおり。

端数が生じた場合は、小数点以下第三位の値を四捨五入します。

59点以下の授業科目については「GP=0」とします。

$$GP = \frac{(\text{各授業科目の学修の評価} - 55)}{10}$$

$$\text{通算GPA} = \frac{(\text{在学期間に履修申告した対象授業科目のGP} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{(\text{在学期間に履修申告した対象授業科目の単位数}) \text{の総和}}$$

$$\text{年度GPA} = \frac{(\text{当該年度に履修申告した対象授業科目のGP} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{(\text{当該年度に履修申告した対象授業科目の単位数}) \text{の総和}}$$

$$\text{学期GPA} = \frac{(\text{当該学期に履修申告した対象授業科目のGP} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{(\text{当該学期に履修申告した対象授業科目の単位数}) \text{の総和}}$$

$$\text{クォーターGPA} = \frac{(\text{当該クォーターに履修申告した対象授業科目のGP} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{(\text{当該クォーターに履修申告した対象授業科目の単位数}) \text{の総和}}$$

GPT（グレード・ポイント・トータル）

GPTは、早期卒業、飛び入学の基準として用いる指標です。なお、卒業要件とならない授業科目（教職科目、大学院科目）、単位認定された授業科目はGPTの対象外としています。研究関連科目及び合格・不合格で成績が付く授業科目についてはGPTの対象とし、「合格」の場合は「GP=2.5」、不合格の場合は「GP=0」とします。GPTは、教務Webシステムで表示します。

計算式は次のとおり。

端数が生じた場合は、小数点以下第三位の値を四捨五入します。

59点以下の授業科目については「GP=0」とします。

$$\text{GP} = \frac{(\text{各授業科目の学修の評価} - 55)}{10}$$

$$\text{GPT} = \frac{(\text{在学期間に履修申告した対象授業科目のGP} \times \text{単位数}) \text{の総和}}{110}$$

(6) 教務Webシステム、OCW、T2SCHOLAについて

教務 Web システムは、履修申告、成績の閲覧、系所属手続き（予備調査、本申請）、住所変更手続き等に用いるものです。

OCW（東工大オープンコースウェア）は、各授業科目のシラバス（授業細目）、講義ノート等をHP上で学内外に向けて提供しているものです。履修申告及び学修の参考にして下さい。

T2SCHOLA は、当該授業科目を履修申告している学生限定で利用でき、教員からの授業で利用する教材の入手、レポート課題の提出、休講情報の入手などができます。

教務 Web システム、T2SCHOLA は、東工大ポータルページ (<http://portal.titech.ac.jp/>) からログインして使用します。

なお、T2SCHOLAについては、「T2SCHOLA - 東京工業大学オンライン学修アプリ」という名前で、iOSおよびAndroidのモバイルアプリを提供中です。

(7) アカデミック・アドバイザーについて

入学時から学生1名につき、本学教員2名がアカデミック・アドバイザーとして担当し、授業科目の履修状況や成績等の学修状況を考慮しながら、修学や進路に関する相談にのるなど、きめ細やかな学修支援を行います。アカデミック・アドバイザーは、系所属、学士特定課題研究の開始時等に交替することがあります。

(8) 学修コンシェルジュについて

学修コンシェルジュは、大学生はどういう学修をするのか、本学の教育システムの学修上の意義、本学の特徴的な教育体系の意義を説明し、学修のための仕組みに関する情報を提供します。また、新入生ガイダンスやセミナーの開催、学修に関する個別相談を行います。入学当初の疑問・問題を解消し、大学生としての学修力を身に付けられるようサポートします。

(9) 学修ポートフォリオシステムについて

学修過程や学修成果を収集、記録するシステムで、自己省察等に利用します。担当のアカデミック・アドバイザーが確認及びコメントの記入等を行い、面談の際も利用します。学修ポートフォリオシステムは、東工大ポータルページからログインして使用します。

ポートフォリオは、①自分がどのような学修をしたか等を記録することで、自己省察や次のステップや目標を決める際に役立ちますし、②大学生活や自身の将来やキャリアに有効に活用ができます。主に大学での経験を見える化して、将来の糧とします。自分を客観的に把握できるポートフォリオを使って自主的な学修に役立てましょう。

(10) 保証人への学業成績書の送付及び通知について

本学では、年1回（系に所属していない学生は毎年10月。系に所属する学生は毎年6月）、学業成績書を保証人宛に送付しています。また、留学、休学などの身分異動に関し保証人に通知を行うことがあります。詳細は「東京工業大学における保証人等に関する取扱い」（p. 225）を参照してください。

(11) 他大学の授業科目の履修について

お茶の水女子大学、慶應義塾大学との単位互換

本学とお茶の水女子大学、慶應義塾大学（経済学部）の間において、単位互換の協定・覚書等を締結しています。これにより希望者（系に所属している学生が対象）は、特別聴講学生として各大学の授業科目（各大学が指定する科目に限ります。）を受講して単位を修得することができます。

四大学連合による単位互換等（東京医科歯科大学、東京外国語大学、一橋大学）

本学は、東京医科歯科大学、東京外国語大学、一橋大学との間で「四大学連合憲章」を締結しており、四大学連合「複合領域コース」（P. 26参照）に所属することにより、当該コースの所定の授業科目の履修、単位修得が可能となります。

※ 卒業要件の単位数には、他大学での修得単位は60単位まで算入できます。

（注意：60単位には、入学前の他大学における既修得単位、入学後の他大学（留学先の大学を含む）における修得単位、全てを含みます。）

※ 履修方法、履修可能科目などについては、揭示、HP等で確認してください。